

2023年2月22日

MURC Focus

2022年のトルコの対口貿易動向

～機械類と化学品の輸出増が顕著

調査部 副主任研究員 土田 陽介

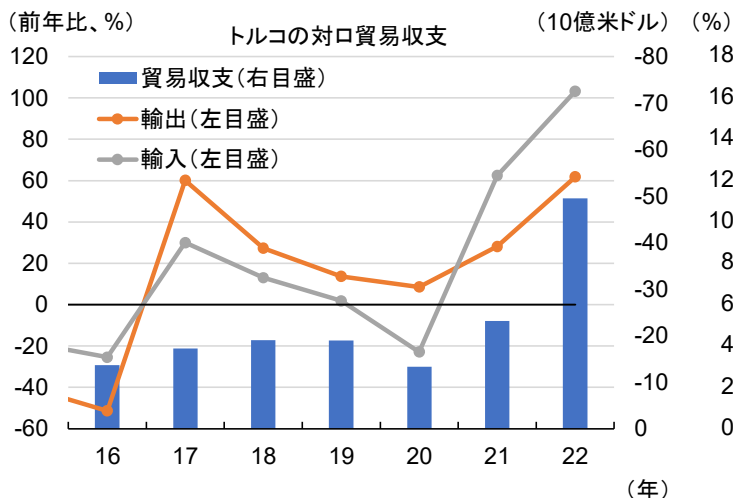
- トルコ貿易省によると、2022年のトルコの対口貿易総額は682億米ドルと前年から96.3%増加した。全体の貿易総額の伸びが24.4%増だったことを考慮すると、トルコのロシア向け貿易は堅調と評価される。
- 輸入増加のほとんどを占めたのは、原油を含む石油製品であった。他方で、輸出のけん引役は主に機械類と化学品であった。
- ロシア経済にとって、ヨーロッパからの調達の代替ルートとしてのトルコの存在感は、ウクライナ侵攻後の一年で着実に高まったと評価される。

(1) ほぼ倍増したトルコの対口貿易額

トルコ貿易省によると、2022年のトルコの対口貿易総額は682億米ドルと前年から96.3%増加した。全体の貿易総額の伸びが24.4%増だったことを考慮すると、トルコのロシア向け貿易は堅調と評価される。輸入が特に好調であり、前年比103.2%増と2021年（同62.4%増）から伸びが加速した（図表1）。一方で輸出も同61.8%増と、前年（28.1%増）から伸びが加速した。

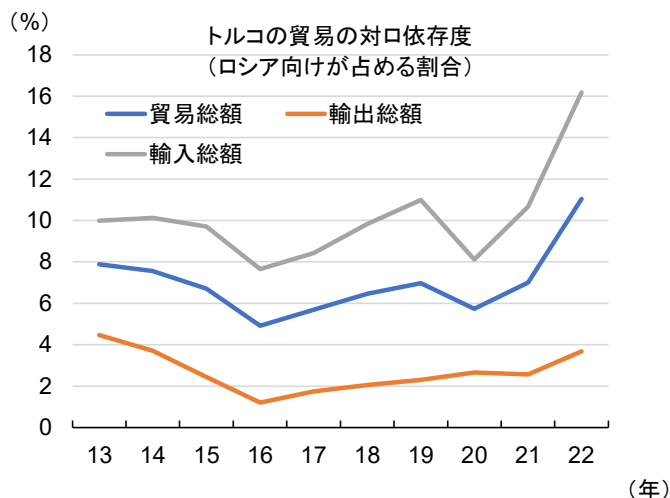
輸出よりも輸入が好調だったことを受けて、2022年のトルコの対口貿易収支は▲495億米ドルとなり、赤字幅が前年（▲232億米ドル）から2倍以上拡大した。また2022年におけるトルコの貿易の対口依存度も、輸入ベースで16.2%と前年（10.7%）から急上昇した（図表2）。つまり、トルコの対口貿易は2022年に急拡大したが、そのけん引役は輸入だったことが分かる。

図表1. 拡大したトルコの対口貿易赤字



(出所)トルコ統計局

図表2. 対口貿易のけん引役は輸入

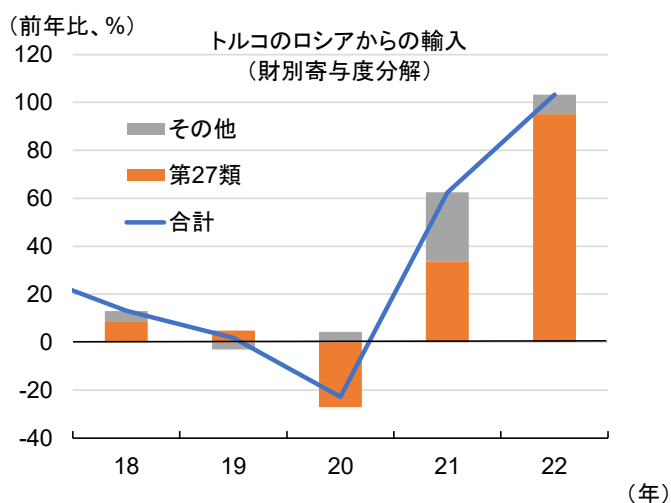


(出所)トルコ統計局

トルコのロシアからの輸入額の増減率を財別（HSコード）に寄与度分解すると、トルコの輸入増加のほとんどを占めたのは第27類（鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう）であり、つまり原油を含む石油製品であった（図表3）。実際に、2022年におけるトルコのロシアからの輸入の71.0%が第27類であった。

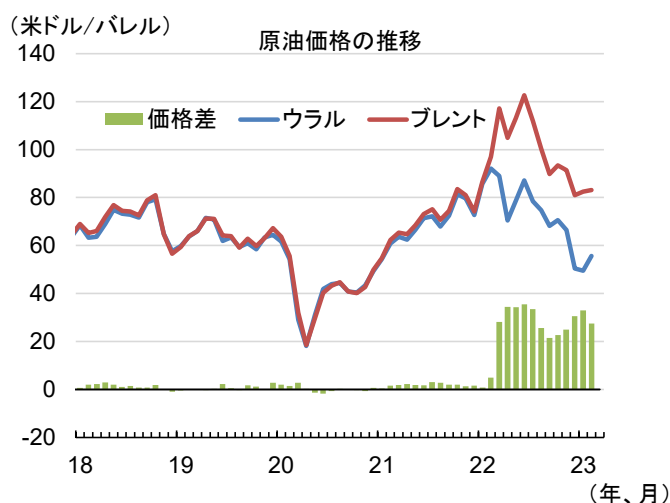
ロシア産原油の価格（ウラル価格）は、国際指標であるブレント原油価格に比べて安価な状況が続いている（図表4）。ロシアのウクライナへの侵攻を非難する欧米とは異なり、トルコはロシアと友好関係を維持しているため、価格が安いこともあり、中国やインドなどとともにロシア産原油を引き受けていると指摘されてきた。そのことが統計的にも確認されたことになる。

図表3. 輸入増のけん引役は原油を含む石油製品



(注) 第27類は「鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう」である
(出所)トルコ統計局

図表4. 国際価格に比べて割安なロシア産原油



(注) 2月のデータは2月第2週までの平均値
(出所)ロシア財務省、米エネルギー情報局、モスクワ証券取引所、CME

(2) 機械類と化学品が堅調だったトルコの対ロ輸出

他方で、トルコのロシアに対する輸出の増減率を財別（HSコード）に寄与度分解すると、寄与率の上位を占めたのは、第16部（機械類及び電気機器並びにこれらの部分品並びに録音機など）を筆頭に、第6部（化学工業（類似の工業を含む。）の生産品）、第7部（プラスチック及びゴム並びにこれらの製品）、第15部（卑金属及びその製品）であった（図表5）。

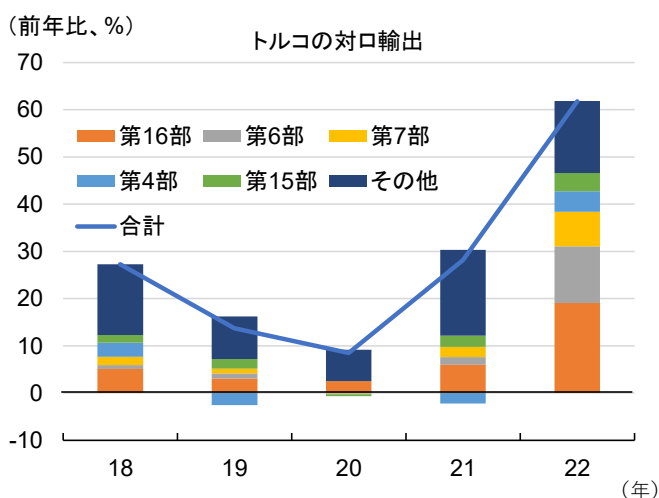
特に第16部（機械類及び電気機器並びにこれらの部分品並びに録音機など）は前年比101.0%増と、絶好調だった。そのけん引役は第84類（原子炉、ボイラー及び機械類並びにこれらの部品類）であり、寄与度は73.0%ポイントに達した。品目表が確認できなかったため詳細は不明であるが、電動機や建設機械、工作機械などが堅調だった可能性がある。

一方で、第85類（電気機器及びその部分品など）の輸出も堅調に増加し、輸出総額ベースでは前年比14.1%増だったのが、対ロ向け輸出額は同120.5%増だった。この第85類には、いわゆる

半導体デバイス（HSコード8541）も含まれており、ロシアが国内で完成品を生産するために必要な半導体をトルコから多く調達した可能性を物語っている。

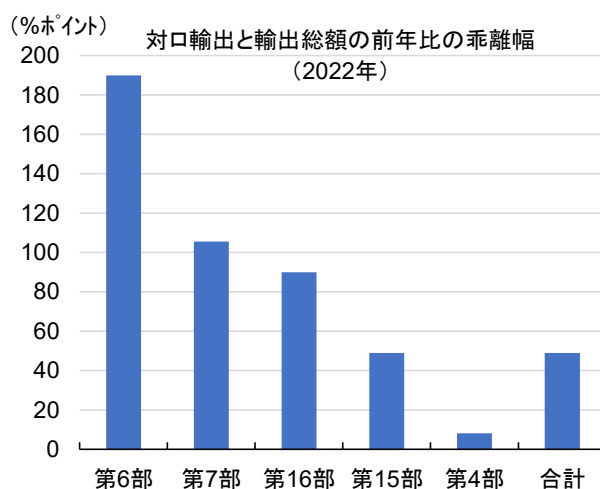
さらに、トルコのロシア向け輸出が、他国向けと比べてどれくらい堅調だったのかを分析したものが図表6となる。これによれば、対ロシア向け輸出総額の増勢は世界向け輸出総額に比べて48.9%ポイント高かった。部門別には、特に第6部（化学工業品等）と第7部（プラスチック等）、そして第16部（機械類等）について、対ロシア輸出が他国と比べても堅調だった。

図表5. 機械類がけん引するロシアへの輸出



(注) 寄与率が上位5位の項目で作成した。
(出所) トルコ統計局

図表6. 化学品の対ロシア輸出が他国向けより堅調



(注) この乖離幅がプラスに大きいほど、ロシア向け輸出が世界向け輸出よりも増勢が強いことを意味する。
(出所) トルコ統計局

(3) ロシアで高まるトルコ経済の存在感

2022年のトルコの対ロシア貿易動向をまとめると、貿易全体は堅調に増加したが、それは主にロシアから化石燃料の輸入急増によるものだった。一方で、前年から倍増した輸入に比べるとその勢いが限定的だったとはいえ、輸出も6割増と堅調であった。そして、輸出のけん引役は主に機械類と化学品であった。

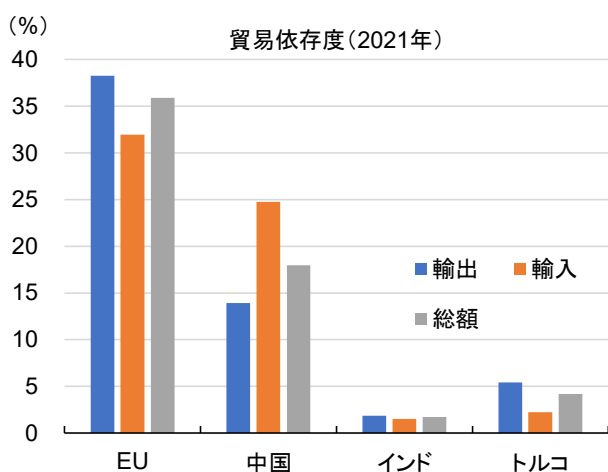
中国と異なる点としては、まず輸出の増勢にある。中国の2022年における対ロシア輸出額は前年比12.8%増と、2021年（33.5%増）から伸びが鈍化した（土田, 2023）。一方でトルコの場合、2022年における対ロシア輸出額は同61.8%増と、前年（28.1%増）から伸びが加速している。輸出の増勢という点においては、中国よりもトルコのほうが好調だったということになる。

また財別にも、中国の対ロシア輸出は第6部（化学工業（類似の工業を含む。）の生産品）、第17部（車両、航空機、船舶及び輸送機器関連品）、第7部（プラスチック及びゴム並びにこれらの製品）などが好調であった。一方でトルコの場合、第16部（機械類及び電気機器並びにこれらの部分品並びに録音機など）が輸出の最大のけん引役となっている。

欧米日から経済・金融制裁を科されたことで、ロシアのヨーロッパからの輸入が激減したことが、欧州連合（EU）側の統計から明らかとなっている。特に、ロシア国内でモノを生産するために必要となる中間財や資本財については、ロシアが中国やトルコから輸入を増やしている可能性が指摘されていたが、トルコの統計はその動きをうかがわせるものであった。

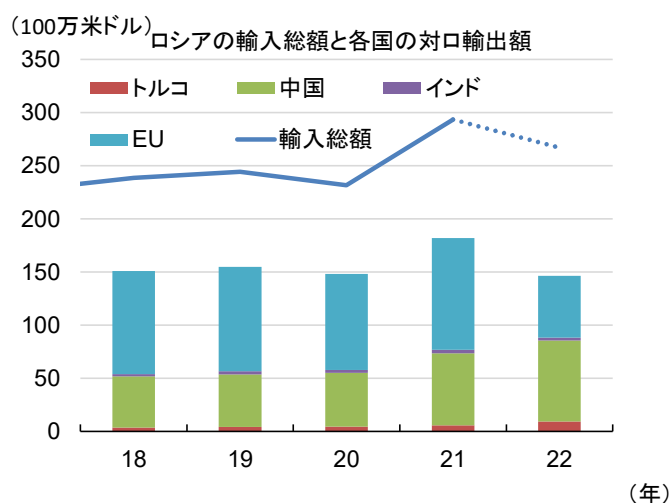
国際通貨基金（IMF）によると、ウクライナ侵攻直前の2022年時点で、ロシアの貿易総額に占めるトルコ向け貿易の割合は4.2%であった（図表7）。ウクライナ侵攻後、ロシアは通関統計の公表を停止しているが、関連の統計から察するに、2022年の輸入総額は前年から1割ほど減少した公算が大きい。こうした中で、トルコはロシア向け輸出を6割増加させた（図表8）。

図表7. ロシアの国別貿易依存度



(出所) IMF, Direction of Trade Database

図表8. トルコの存在感はまだ限定的か



(注) 輸入総額の破線は2021年の輸入総額の実績を国際収支統計の「財・サービス輸入」の前年比(9%減)で伸ばしたもの
(出所) 各国統計局

ラフに計算すれば、ロシアの輸入総額に占めるトルコからの輸入額の割合は2021年の2.2%から、2022年には3.5%前後にまで上昇した模様である。ロシア経済にとって、ヨーロッパからの調達の代替ルートとしてのトルコの存在感は、まだ限定的とはいえ、ウクライナ侵攻後の一年で着実に高まったと評価される。

参考文献

土田陽介（2023）「2022年の中国の対ロ貿易動向~ロシアとの貿易の中心は化石燃料の輸入」三菱UFJリサーチ&コンサルティング『調査レポート』（2023年1月24日付）

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。